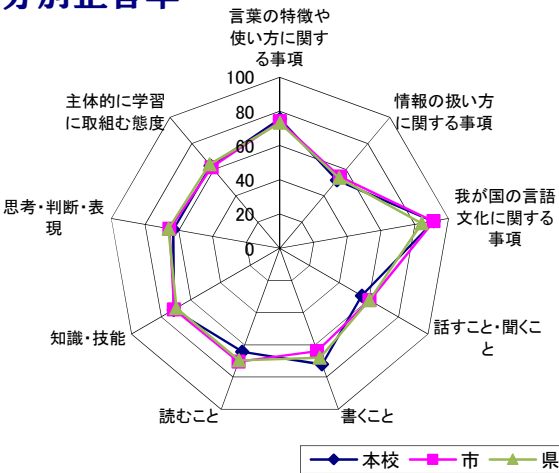


宇都宮市立東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.6	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	52.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	91.2	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	55.3	60.6	60.4
	書くこと	72.1	63.8	68.0
	読むこと	64.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.6	71.3	69.9
	思考・判断・表現	63.3	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	62.9	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

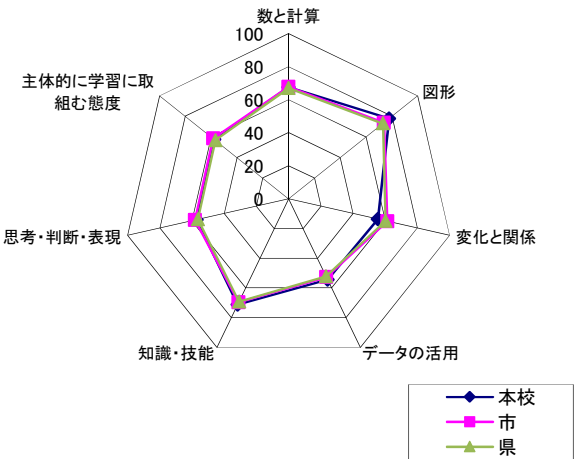
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は県の平均を2.3ポイント上回っている。 ○第4学年に配当されている漢字を読む問題においては、いずれの設問でも正答率が90%を越えている。 ●第4学年に配当されている漢字を書く問題においては、正答率が70%程度になっていて、読む問題よりも低くなっている。また、設問によっては県の平均を下回っている。	・当該学年までに習った漢字の復習を行っていく必要がある。漢字ドリルや教科書に、4年生までに習った漢字として問題が出ているので、それらを活用して、4年生までに習った漢字の復習を定期的に行っていく。また、第5学年で習う新出漢字と合わせて、熟語の練習をすることにより、当該学年までに習った漢字を活用できるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は県の平均を1.8ポイント下回っている。 ●説明文の内容を読み取る上で、情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える設問においては、平均正答率が38.2%であり、県の平均を3.4ポイント下回っている。	・説明文の読み取りにおいては、書いてある内容を読み取る際、その内容が具体なのか抽象なのかを判断したり、筆者の主張、事実、具体例なのかという視点をもって読み取ったりできるように指導していく。そうすることで、段落相互の関係を考えながら読み取る力を身に付けさせていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県の平均を7.0ポイント上回っている。 ○「ことわざの意味」に関する問題において、平均正答率は91.2%であり、概ね理解していると言える。	・普段の生活の中で、「ことわざ」や「慣用句」「四字熟語」に触れる機会を増やすとともに、朝の会や国語の授業中などにも、暗唱したり意味について調べたり、活用したりしていきたい。また、「ことわざ」については、スタンダードダイアリーにも、一覧表になって載っているので、活用していきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を5.1ポイント下回っている。 ●話の中心を考えたり、話を大まかに捉えたりして聞く設問において、平均正答率が50.0%であり、県の平均を15.9ポイント下回っている。	・「話すこと・聞くこと」の授業においては、自分の考えを話したり、友達同士で話し合ったりする学習活動だけでなく、「聞く」学習にも力を入れていきたい。「聞く」学習では、話の隅々までよく聞いてメモする力だけでなく、メモを見て、話し手の話の中心は何なのか、伝えたいことは何なのかを考えさせるようにしていきたい。「書く」授業にも関連させて、作文やお話に題名を付けさせるなど、学習活動を工夫していきたい。
書くこと	平均正答率は県の平均を4.1ポイント上回っている。 ○「書くこと」に関する設問においては、いずれの設問でも、県の平均を上回っている。 ●「2段落構成で文章を書く」という設問においては、県の平均を上回っているものの、平均正答率は64.7%と、高いとは言えない。	・「書くこと」の学習においては、児童に書くことの機会をたくさん与えていきたい。まず、書き慣れることによって、書くことの抵抗感を減らし、次に、量を書けるようにしていく。それと同時に、「○○文字で書きましょう。」「○つの段落に分けて書きましょう。」「○○の言葉を入れましょう。」など、条件を設定した下で書く学習活動を仕組み、書く力を身に付けさせていきたい。
読むこと	平均正答率は県の平均を5.4ポイント下回っている。 ●物語の読み取りに関しては、「登場人物の気持ちを叙述を基に捉える」問題や「登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結びつけて想像する」問題など、全ての設問で県の平均を下回っている。	・物語を読むことの学習においては、「登場人物の気持ちを想像しながら読む」ことに力を入れていく。その際、場面ごとの詳細な読み取りだけでなく、全文を視野に入れ、場面と場面の移り変わりと登場人物の気持ちの変化を関連させながら読み取らせるなど、学習活動を工夫して、児童に読む力を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.6	67.8	67.0
	図形	77.9	73.9	73.1
	変化と関係	55.4	61.4	60.2
	データの活用	54.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	71.1	69.7	69.2
	思考・判断・表現	57.1	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	57.6	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

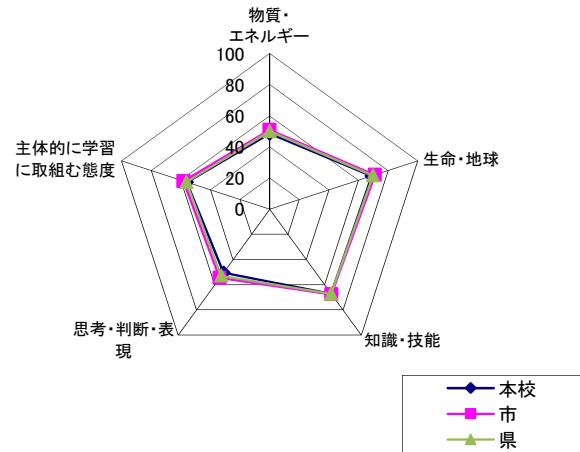
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均とほぼ同程度であった。 ○十進位取り記数法の問題では、県の平均正答率を11.6ポイント上回った。	・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、見直しの姿勢を身に付けていけるよう、確認作業も活動に入れていく。小数や分数の仕組みを理解して計算できるよう、子供自身で考えながら説明したり、繰り返し練習問題に取り組んだりしながら、定着を図っていく。
図形	平均正答率は県の平均を4.8ポイント上回った。 ○直方体のある辺に平行な辺を問う問題では、県の平均正答率を15.6ポイント上回った。	・図形を用いて自分の考えを説明する力を高めるために、図で表す活動や、図を読み取る活動を積極的に取り入れるとともに、学習したことを復習する機会をより多く設ける。また、特別な三角形(正三角形、二等辺三角形)や特別な四角形(平行四辺形、ひし形)の概念について再確認し、図形に関する基礎的な知識を深めていく。
変化と関係	平均正答率は県の平均を4.8ポイント下回った。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県の平均正答率を10.4ポイント下回った。 ●基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらがよく伸びるか説明する問題では、県の平均正答率を13.0ポイント下回った。	・解き方を説明する力を身に付けるため、自分の考えをまとめ、発表する活動を積極的に取り入れていく。特に、「変わり方」の学習において、具体的な場面において、伴って変わる2つの数量があることに着目し、表に表したり、○や△を使った式に表したりしながら、一般的に言える決まりを明らかにするよう取り組んでいく。式に表す活動では、場面について図で表したり、言葉の式をもとにしたりしながら、○や△を使った式に表せるようにしていく。
データの活用	平均正答率は県の平均を2.3ポイント上回った。 ○折れ線グラフと棒グラフを読み取る問題では、県の平均正答率を6.6ポイント上回った。	・解き方を説明する力を身に付けるため、自分の考えをまとめ、発表する活動を積極的に取り入れていく。棒グラフと折れ線グラフを対比しながら、部分的な変化と全体的な変化の特徴や傾向をよみ取ったり表したりすることができるようにするとともに、2つのグラフから読み取れることを、話し合う活動を取り入れていく。折れ線グラフの読み取りについては、算数の時間だけでなく理科等教科を横断的に取扱い、グラフに慣れるようにする。

宇都宮市立東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.6	50.8	50.0
	生命・地球	68.9	71.1	69.8
観点	知識・技能	67.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	50.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	55.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は県の平均を1.4ポイント下回っている。 ○「電気の働き」では、県の平均をおよそ12～18ポイント以上上回り、平均では14.7になっている。 ●予想したり、実験結果から考察したり説明したりする設問においては、5.8ポイント～16.5ポイントと大きく下回っている。	・物質・エネルギーの学習において、全体的には－1.4ポイントと、僅差になっているものの、問題の内容によっては、＋14.7～－10.4ポイントとなっており、その振れ幅は25ポイント以上になってしまい、あまりにも大きい。個々の発達段階や生活経験の実態、またその時の理解度などを十分に考慮しつつ、より身近で親しみやすいような生活経験と学習を結び付けたり、その中での予想や考察などを書いたり発表したりする機会を、意図的に設定して学習を進めていくと改善が見込めるのではないだろうか。
生命・地球	平均正答率は県の平均を0.9ポイント下回っている。 ○「天気の様子と気温」では、県の平均よりも8.9ポイント以上、最大28.7ポイントも上回ることができた。 ●「1年間の動物の様子」や「1年間の植物の成長」では、いずれも県の平均を10ポイント以上、最大では22.5ポイント下回っている。	・グラフを読み取ることで得られた情報を、どのように活用していくことが、課題解決につながるのかを推察していくことや説明する学習を多く取り入れていけるとよいのではないと思われる。

宇都宮市立東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では、県の肯定的回答を8.3ポイント上回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答も83.7%であり、話し合い活動に進んで参加し、友達の考えを聞くことで自分の考えを広げていることが伺える。

○「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」では肯定的回答が91.9%と、県の肯定的回答を8.9ポイント上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」でも肯定的回答が62.1%と、県の肯定的回答を13.5ポイント上回っている。授業の中で自分の考えを発表する機会が十分に与えられていることで、自分の考えを発表することが得意と感じる児童が多くなると考えられる。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」では、肯定的回答が72.9%と、県の肯定的回答を13.6ポイント上回っている。また、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」でも肯定的回答が94.6%と、県の肯定的回答を8.2ポイント上回っている。自分のよさを見つけ、認めることができおり自己肯定感が高い児童が多いことが伺える。自分のよさを生かすことで、自信に繋がり、学習や活動を意欲的に取り組むことができる児童が多いと考えられる。

●「毎日、同じくらいの時こくにねている」の肯定割合が67.5%と、「早ね、早起きを心がけている」では肯定割合が64.8%と、県の肯定割合を11.9ポイント下回っている。平日の睡眠時間に関する質問では全体で「8時間より少ない」と回答した児童が35.1%と、県の回答よりも12.0ポイント上回っている。早寝ができておらず、睡眠時間が少ない実態があるので、生活リズムを振り返らせ、規則正しい生活を送れるようにしたい。

●平日のテレビやビデオ・DVD鑑賞に関する質問では「4時間以上」と回答した児童が29.7%と、県の回答より14.7ポイント上回っている。また、全体で「2時間以上」と答えた児童が70.3%と、県の回答より18.3ポイント上回っている。また、平日のテレビゲームやスマートフォンのゲームの使用時間に関する質問では「4時間以上」と回答した児童が18.9%と、県の回答より5.6ポイント上回っている。テレビやスマートフォンなどの画面を見る時間が多く、目を休める時間が少ない児童が多いと伺える。また、視力が低下している児童も増加している。コロナ禍の自粛期間により、家で過ごす時間が増えたことでテレビやスマートフォンを使用する時間が多くなったことも原因の一つであるが、情報メディアに時間を割いてしまう児童が多い現状がある。アウトメディアの時間を取ることが出来るよう指導していきたい。

宇都宮市立東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組む、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②思考力・表現力を伸ばし、高める指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICTや教材・教具の活用と児童の問いを生かす工夫 ②主体的に取り組む、協働的に学ぶ合う授業の推進 ③学業指導の充実と各教科の知識・技能の確実な定着	・児童質問紙「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の設問における肯定的回答は、4年生も5年生も、いずれも80%を越えていて、県の平均を上回っている。 ・協働的な学びの場を授業の中で意図的に組み込むことにより、児童が主体的に学ぼうとする態度の育成につながっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・4年生の算数の知識・理解が県の平均を下回っている。 ・5年生の国語と理科の思考力・判断力・表現力が県の平均を下回っている。	・基礎・基本の一層の定着とともに、思考力・判断力・表現力を伸ばす指導の工夫	・知識及び技能と、思考力・判断力・表現力の両方の力を身に付けさせるために、目的意識をもって学習に取り組めるように工夫していく。身に付けた知識・技能をどのような場面で活用したり表現したりしていくのか、単元を構成する際に、児童が明確な目的をもって学習することで、意欲の向上を図るとともに、基礎・基本の定着、思考力・判断力・表現力の力も身に付けさせていきたい。